

# パートナー20年目、 さらに絆を強く

● パートナー  
藤島建設株式会社

★浦和駒場スタジアムのバックスタンド1階コンコースに、壁に沿って固定されたテーブルがある。飲食するのに重宝したサポーターも多いはず。あれを設置したのは、1995年から浦和レッズのパートナーとなった藤島建設。20年、レッズと共に地域を盛り上げてきた同社の、代表取締役社長・佐藤善之さんに話を聞いた。



佐藤善之代表取締役社長

援するの成績は関係ありませんでした。

「駒場のバックスタンドのコンコースの壁に固定式のテーブルを設置していただいたのは藤島建設さんですよ。」

そうです。サポーターが地べたに座って物を食べている、ということからクラブから相談を受け、試合の前日に行ったところ、そこでサポーターの方が試合の準備をしている。ああ、こんなに一生懸命やっている人たちが不便しているのか、ということでも私どもが設置させていただきました。

「浦和にあるショールーム（Panda）で「レッズ展」も毎年開催されていました。」

2000年にオープンしたのですが、毎年秋にイベントをやっている、それに合わせて何かやれないかと考えたのが「レッズ展」で、選手のグッズや試合の写真を展示し、写真は最終日に抽選で希望者にプレゼントしていました。

「レッズは協賛企業を「パートナー」と呼んでいますが、まさにそういう活動をしていただいていますね。」

レッズの試合がある日は、私どもの社員は全員、レッズのネクタイをしているんですよ。このネクタイは非売品で、何かレッズのイベントがあるときは、これをしていこうとパートナー各社用に作られたものなんです。これを購入して男性社員に支給しました。

試合の日に、窓からフラッグを出している家がありますよね。それと同じで、会社をあげて今日はレッズの試合日であることをアピールしています。

企業ですから当然、広告宣伝は大切にしていきます。それと同時に地域貢献ということでも考えれば、地元のプロスポーツを応援するというのもその一つだと思います。

ちょうど、95年ごろから、パートナーに埼玉県内の企業が増えて来たんですね。ですから一緒にやろうという意識もできてきました。地元のパートナーの集まりである「埼玉会」というのがあるんですが、その会合やアウェイツアーなどにも欠かさず参加しています。

「この20年、J2降格あり、優勝あり、今回のような制裁あり、と大きな出来事があるありました。」

20年のうちに、変わってきたものがありますね。クラブも大きくなってきましたし、パートナーの数も増えてきました。ファン・サポーターも新しい人が増えてたでしょうから、ずっと同じというわけにはいかないでしょう。

しかしずっと大事にしていたものはなくさないで欲しいし、なくしかけたものは取り戻して欲しいと思っています。私どももパートナーという立場からクラブにいろいろと申し上げます。いろいろなことをきっかけにして、さらに絆を強くしていきたいと思っています。

「藤島建設さんが、レッズのパートナーになったきっかけは何でしょうか。」

川口にある私どもの本社の前あったラーメン屋のご主人が大のレッズファンだったんです。夜は半分居酒屋みたいになるそのお店で、私がそこで飲んでいるとき、「レッズがスポンサーを探しているみたいだよ」という話になって、酔った勢いもあって「じゃあ、うちがなるよ」と答え

たところ、そのご主人がクラブに電話して、営業部の方が2人で本社に見えました。それで1995年の第2ステージからパートナーになりました。

「社内の合意はどうだったのですか。」



毎年秋にはショールームで「レッズ展」も開催

きましたし、そんなところのスポンサーになるなんて、とも言われました。でも、藤島建設はずっと埼玉でやってきた会社で、埼玉で活動をしている会社ですから、地域のクラブを応援するの成績は関係ありませんでした。

◆（佐藤社長）実はレッズのパートナーになる前年まで西武ライオンズの応援をしていたんですが、所沢とは地域的に離れていたんで契約を終えたところでした。そういう良いタイミングだったのも縁だったのでしょうか。私がお酒を飲まなかったら、あのラーメン屋さんにも行かなかったでしょうから、あのときパートナーになっていなかったと思います。そういう縁を大事にしていきたいですね。